

中小企業景況調査報告書

2023年 4月～6月期 実績

(2023年 7月～9月期 予測)

調査実施時点 : 2023年6月1日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各業種の景況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 …… 強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 …… 弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

2023年4月～6月期を対象とした。

調査実施時点 …… 6月1日(木)

調査期間 …… 5月23日(火) ～ 6月2日(金)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、与謝野町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、向日市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、八幡市商工会、木津川市商工会、和束町商工会、長岡京市商工会、京田辺市商工会、久御山町商工会、笠置町商工会、精華町商工会、南山城村商工会、京北商工会、福知山市商工会、伊根町商工会

(計20商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業種	調査対象企業数	構成比	回答企業数	回答率
製造業	36	20.0%	36	100.0%
建設業	24	13.3%	24	100.0%
小売業	52	28.9%	50	96.2%
サービス業	68	37.8%	68	100.0%
【合計】	180	100%	178	98.9%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《概要》

物価上昇の中で先行き不透明な景況

新型コロナウイルスの感染症対策と経済活動の両立が進む一方で物価上昇などの不確実性が残る中、今期の売上DIは全産業平均で対前期比9.9ポイントの改善(前期▲11.4ポイント→今期▲1.5ポイント)となった。

内訳は、製造業が25.0ポイントの改善(前期▲30.5ポイント→今期▲5.5ポイント)、建設業が12.8ポイントの改善(前期▲4.1ポイント→今期8.7ポイント)、小売業が19.6ポイントの悪化(前期▲18.4ポイント→今期▲38.0ポイント)、サービス業が21.4ポイントの改善(前期7.4ポイント→今期28.8ポイント)となった。

採算DIは、全産業平均で対前期比21.2ポイントの改善(前期▲43.5ポイント→今期▲22.3ポイント)となり、内訳は、製造業が33.3ポイントの改善(前期▲44.4ポイント→今期▲11.1ポイント)、建設業が25.0ポイントの改善(前期▲37.5ポイント→今期▲12.5ポイント)、小売業が7.8ポイントの改善(前期▲51.0ポイント→今期▲43.2ポイント)、サービス業が18.6ポイントの改善(前期▲40.9ポイント→今期▲22.3ポイント)となった。

来期の見通しとしては、売上DIが全産業平均で4.0ポイントの改善(今期▲1.5ポイント→来期見通し2.5ポイント)、採算DIでは全産業平均で0.9ポイントの改善(今期▲22.3ポイント→来期見通し▲21.4ポイント)となっている。

業種別景況指標(景気の天気図)では、製造業がやや好転、建設業がやや好転、小売業がやや悪化、サービス業がやや好転となった。

採算の来期見通しは、製造業が11.1ポイントの改善(今期▲11.1ポイント→来期見通し0.0ポイント)、建設業が16.7ポイントの悪化(今期▲12.5ポイント→来期見通し▲29.2ポイント)、小売業が7.9ポイントの改善(今期▲43.2ポイント→来期見通し▲35.3ポイント)、サービス業が1.4ポイントの改善(今期▲22.3ポイント→来期見通し▲20.9ポイント)となっている。

業種別景況指標 (景気の天気図)

※天気図は売上DI

	R3年	R4年			R5年		R5
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月(見通)
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

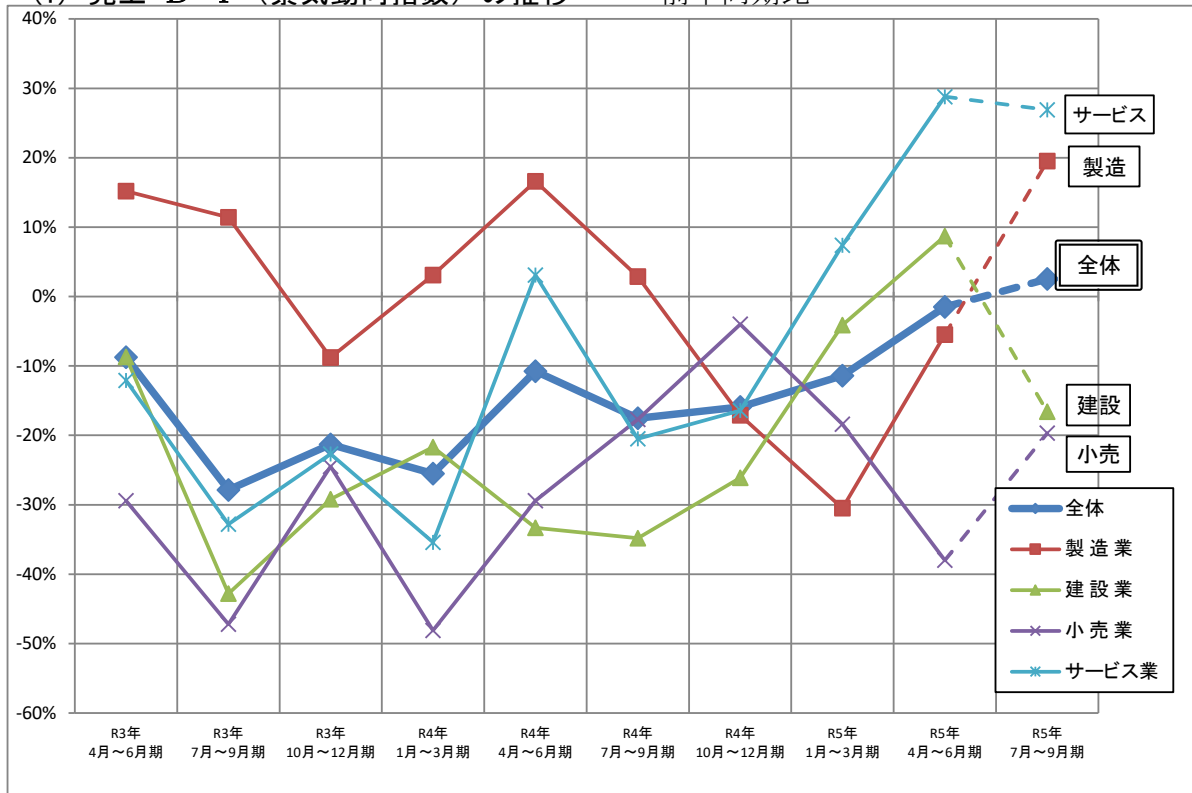
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

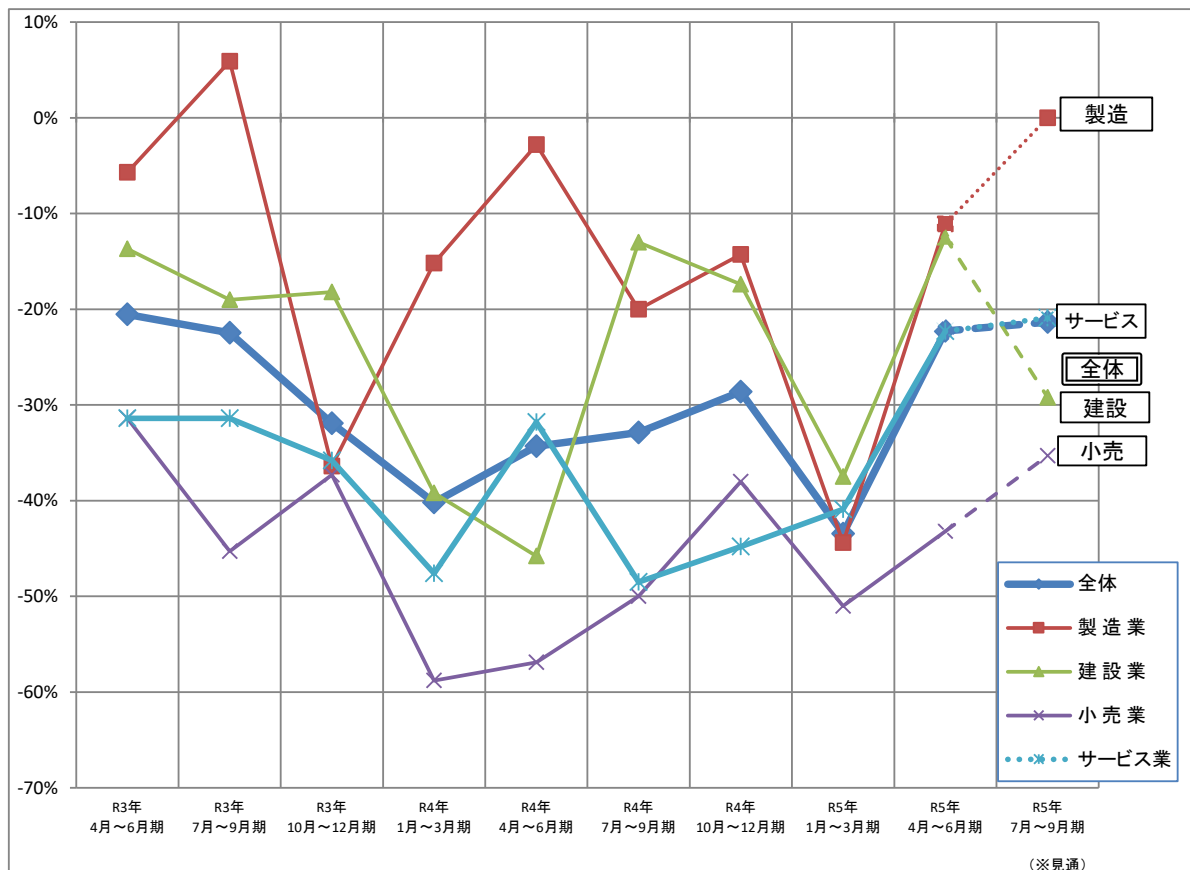
《売上と採算の推移》

(1) 売上 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(※見通)

(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



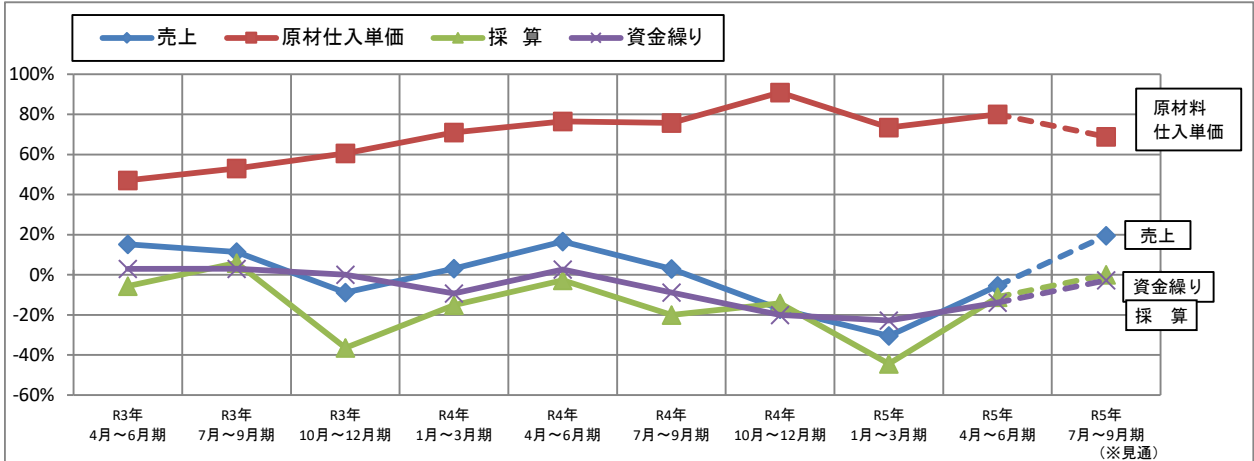
(※見通)

3. 各業種の景況

(1) 製造業

① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

製造業	R4年			R5年		来期予測
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
売上	16.6%	2.9%	▲ 17.1%	▲ 30.5%	▲ 5.5%	19.5%
原材仕入単価	76.5%	75.8%	90.9%	73.5%	80.0%	68.8%
採算	▲ 2.8%	▲ 20.0%	▲ 14.3%	▲ 44.4%	▲ 11.1%	0.0%
資金繰り	2.7%	▲ 8.8%	▲ 20.0%	▲ 22.8%	▲ 13.9%	▲ 2.8%



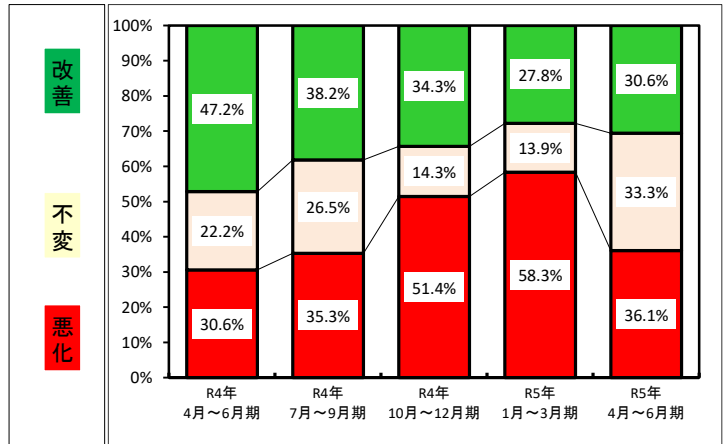
売上 …… ▲ 5.5 ポイント
(前期比 25.0 ポイント改善)

仕入単価 …… 80.0 ポイント
(前期比 6.5 ポイント改善)

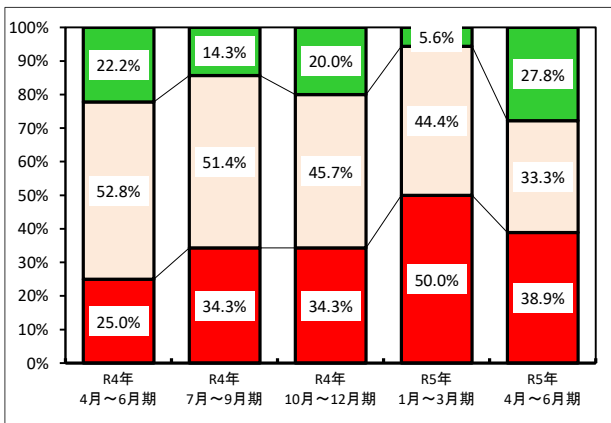
採算 …… ▲ 11.1 ポイント
(前期比 33.3 ポイント改善)

資金繰り …… ▲ 13.9 ポイント
(前期比 8.9 ポイント改善)

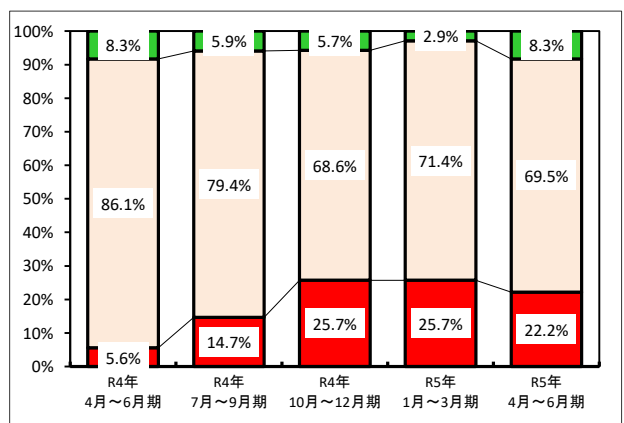
※『売上(加工)』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



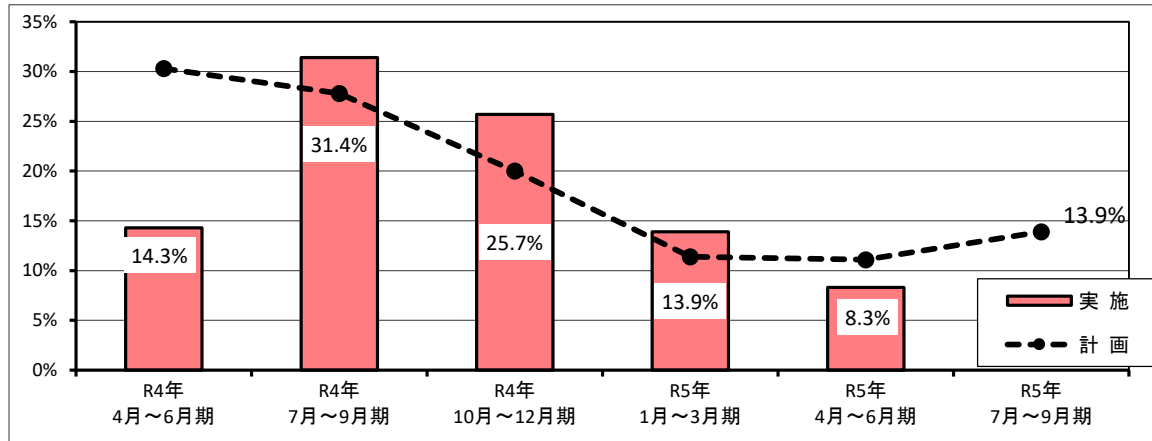
3. 各業種の景況

(1) 製造業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

今期の設備投資の実施状況は、13.9%（前期比11.8ポイント悪化）であった。

製造業	R4年				R5年	(計画) R5年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	1月～3月期	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	20.0%	18.2%	22.2%	20.0%	0.0%	0.0%	
生産設備	40.0%	54.5%	33.3%	40.0%	66.7%	0.0%	
設備投資の実施	14.3%	31.4%	25.7%	13.9%	8.3%	13.9%	

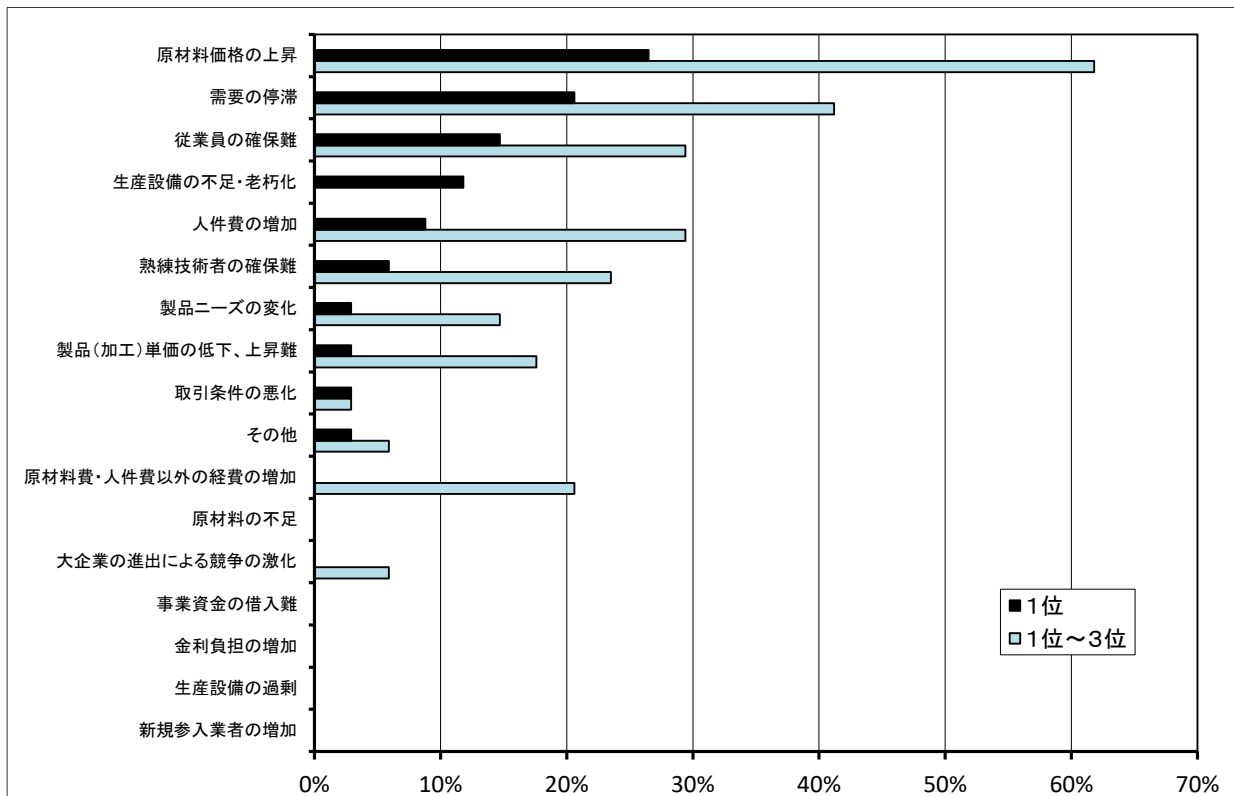


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「原材料価格の上昇」「需要の停滞」「従業員の確保難」が上位となった。

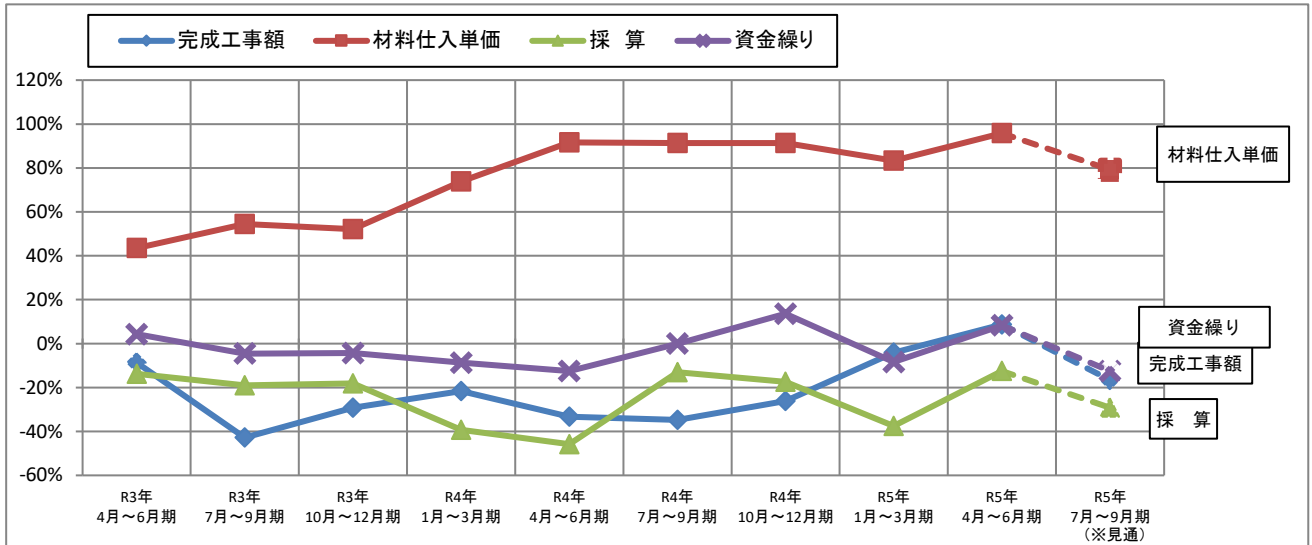


3. 各業種の景況

(2) 建設業

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

建設業	R4年			R5年		来期予測
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
完成工事額	▲ 33.3%	▲ 34.8%	▲ 26.1%	▲ 4.1%	8.7%	▲ 16.6%
材料仕入単価	91.7%	91.3%	91.3%	83.3%	95.8%	79.2%
採算	▲ 45.8%	▲ 13.0%	▲ 17.4%	▲ 37.5%	▲ 12.5%	▲ 29.2%
資金繰り	▲ 12.5%	0.0%	13.6%	▲ 8.4%	8.3%	▲ 12.5%



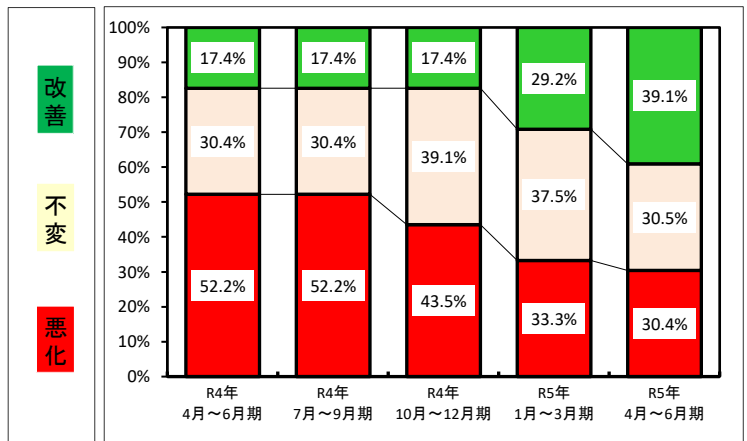
完成工事額 .. 8.7 ポイント
(前期比 12.8 ポイント改善)

仕入単価 95.8 ポイント
(前期比 12.5 ポイント悪化)

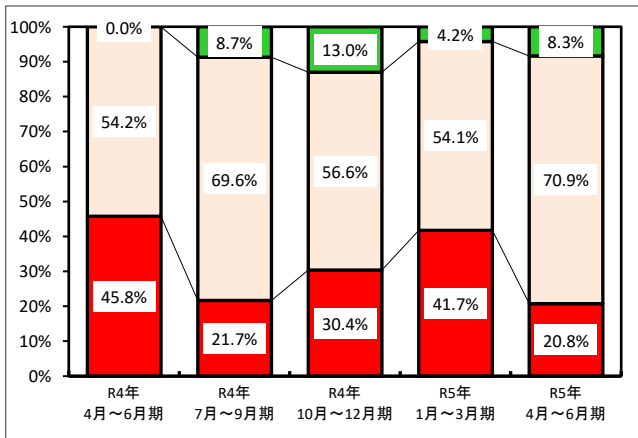
採算 ▲ 12.5 ポイント
(前期比 25.0 ポイント悪化)

資金繰り 8.3 ポイント
(前期比 16.7 ポイント改善)

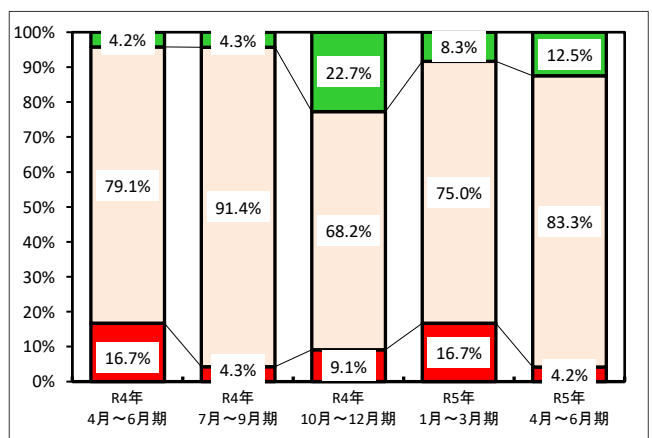
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



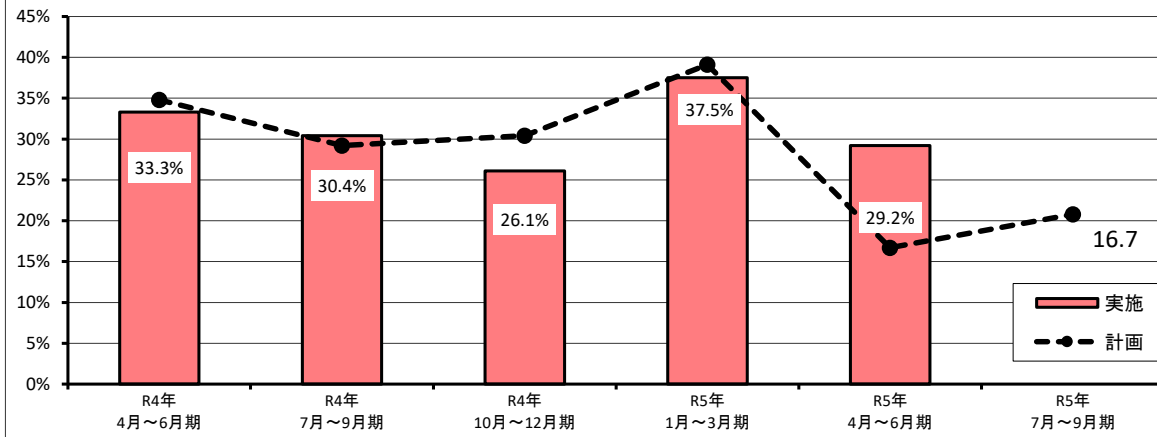
3. 各業種の景況

(2) 建設業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は37.5%（前期比11.4ポイント改善）であった。

建設業	R4年			R5年		(計画)
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
土地	12.5%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
車両・運搬具	25.0%	28.6%	50.0%	11.1%	71.4%	40.0%
建設機械	25.0%	14.3%	16.7%	33.3%	42.9%	60.0%
設備投資の実施	33.3%	30.4%	26.1%	37.5%	29.2%	20.8%

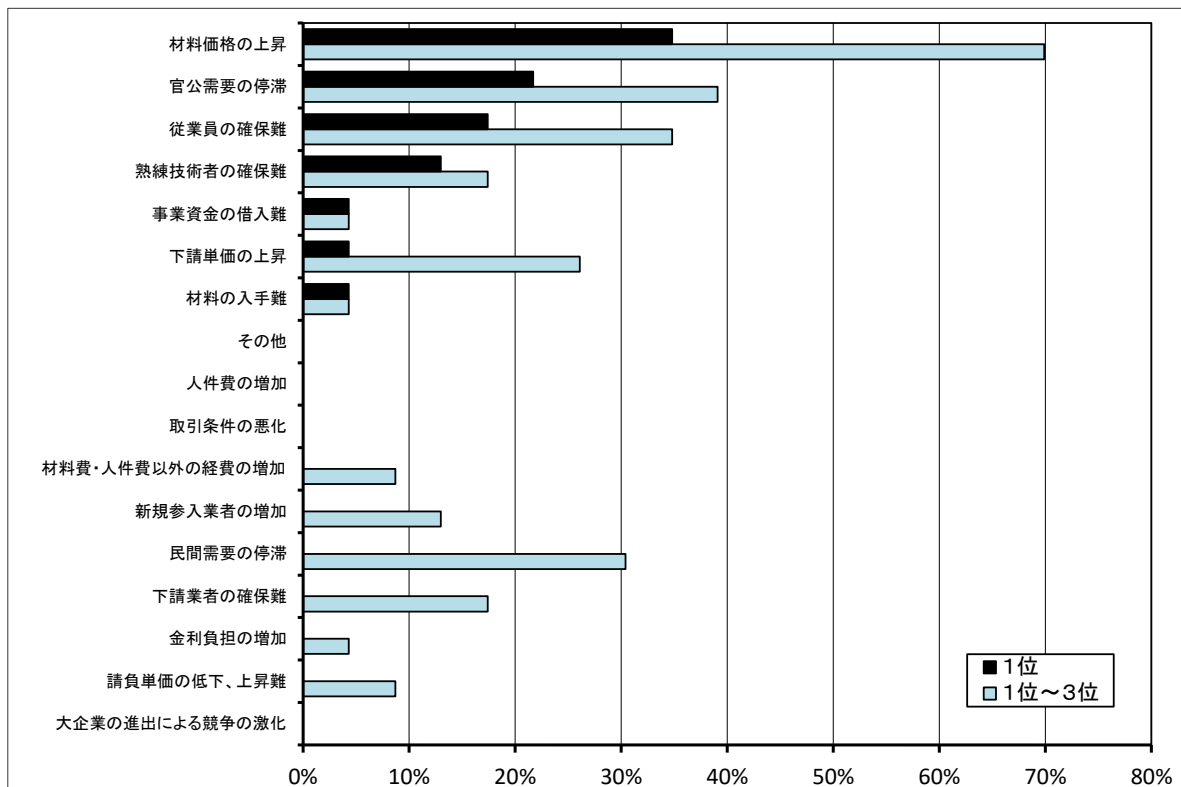


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料価格の上昇」「官公需の停滞」「従業員の確保難」が上位を占めた。

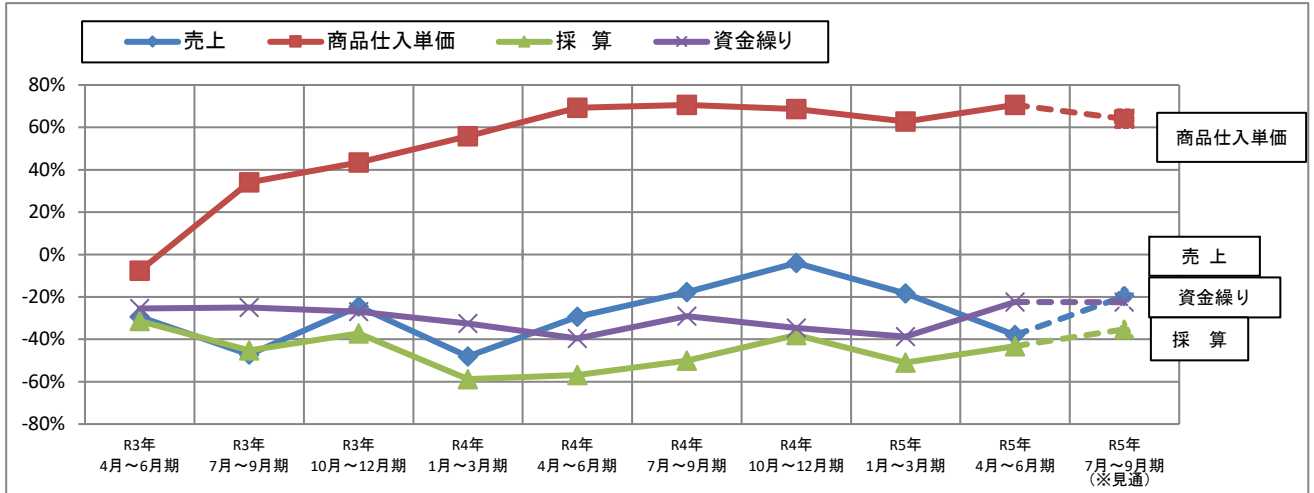


3. 各業種の景況

(3) 小売業

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

小売業	R4年			R5年		来期予測
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
売上	▲ 29.4%	▲ 17.7%	▲ 4.0%	▲ 18.4%	▲ 38.0%	▲ 19.7%
商品仕入単価	69.2%	70.6%	68.6%	62.7%	70.6%	64.0%
採算	▲ 56.9%	▲ 50.0%	▲ 38.0%	▲ 51.0%	▲ 43.2%	▲ 35.3%
資金繰り	▲ 39.6%	▲ 29.1%	▲ 34.7%	▲ 38.8%	▲ 22.4%	▲ 22.5%



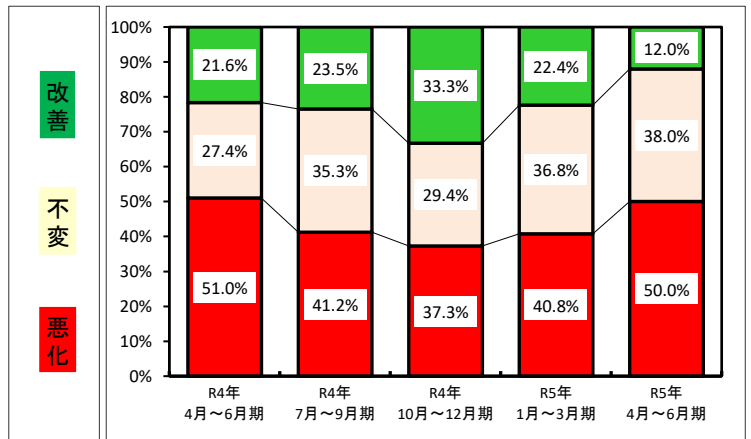
※『売上』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上 …… ▲ 38.0 ポイント
(前期比 19.6 ポイント悪化)

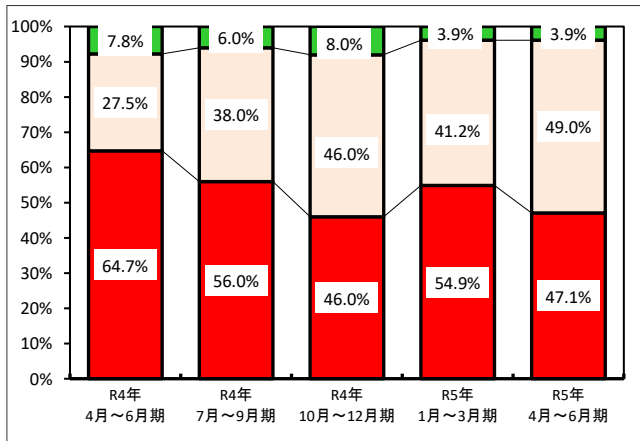
仕入単価 …… 70.6 ポイント
(前期比 7.9 ポイント改善)

採算 …… ▲ 43.2 ポイント
(前期比 7.8 ポイント改善)

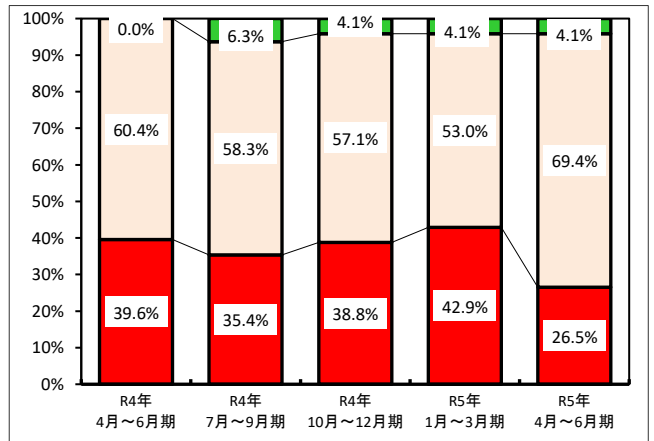
資金繰り …… ▲ 22.4 ポイント
(前期比 16.4 ポイント改善)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



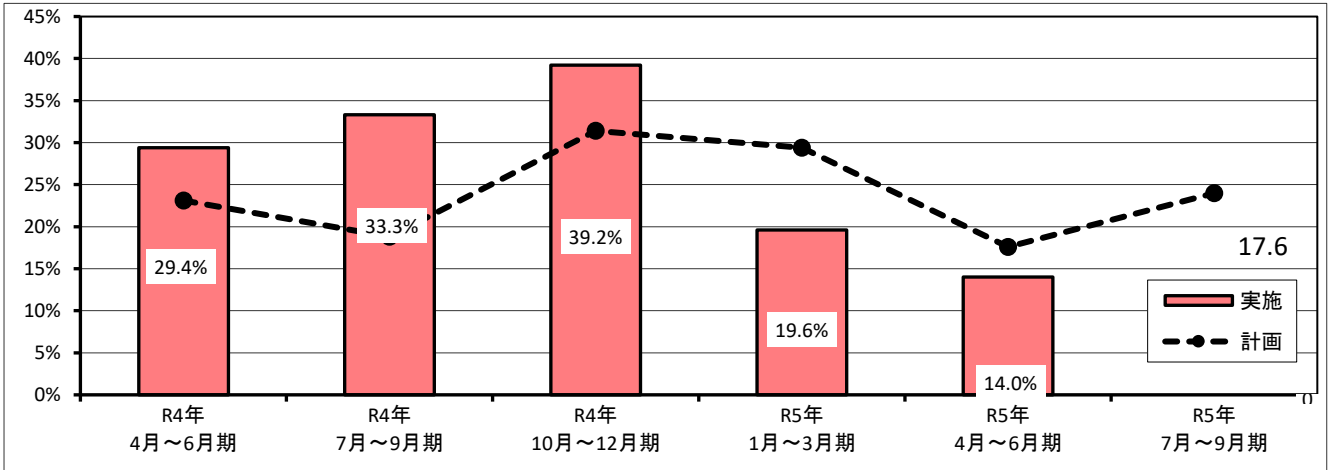
3. 各業種の景況

(3) 小売業

② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資を実施した企業数の割合は19.6%（前期比19.6ポイントの悪化）であった。

小売業	R4年			R5年		(計画)
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
土地	6.7%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	33.3%	17.6%	20.0%	10.0%	0.0%	16.7%
販売設備	53.3%	29.4%	55.0%	40.0%	42.9%	66.7%
設備投資の実施	29.4%	33.3%	39.2%	19.6%	14.0%	24.0%

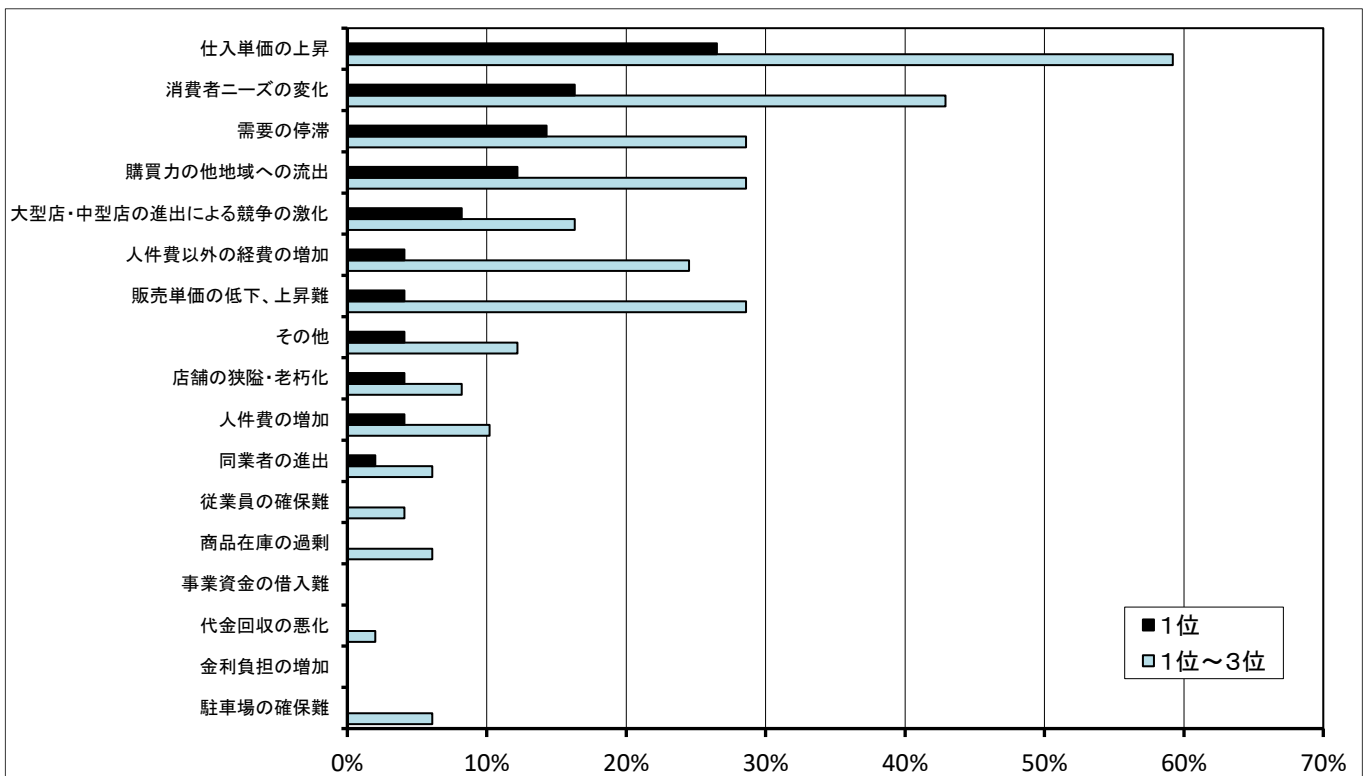


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」「需要の停滞」が上位となった。

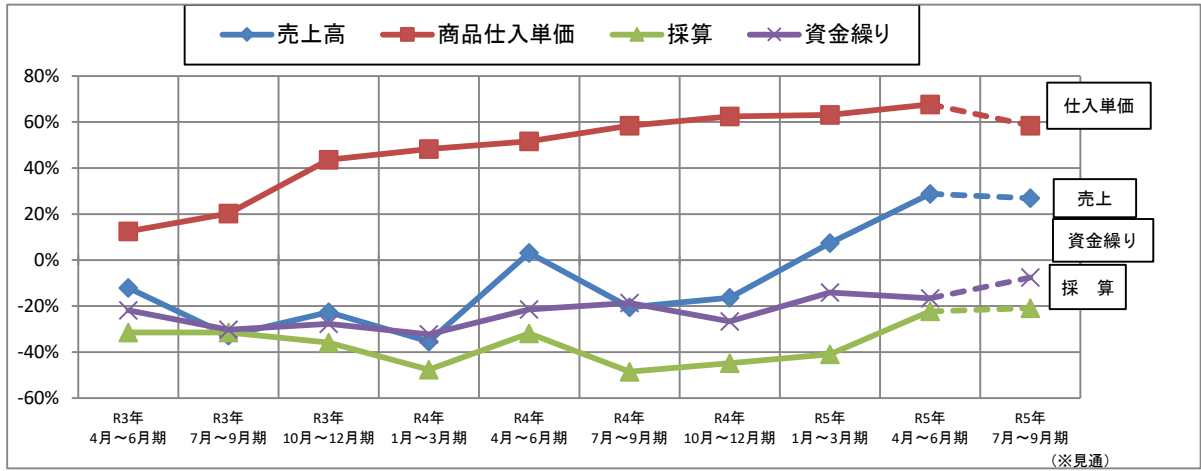


3. 各業種の景況

(4) サービス業

① サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

サービス業	R4年			R5年		来期予測
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年 7月～9月期
売上	3.1%	▲20.5%	▲16.4%	7.4%	28.8%	26.9%
仕入単価	51.6%	58.5%	62.5%	63.1%	67.7%	58.5%
採算	▲31.8%	▲48.5%	▲44.8%	▲40.9%	▲22.3%	▲20.9%
資金繰り	▲21.5%	▲18.7%	▲26.6%	▲14.1%	▲16.6%	▲7.6%



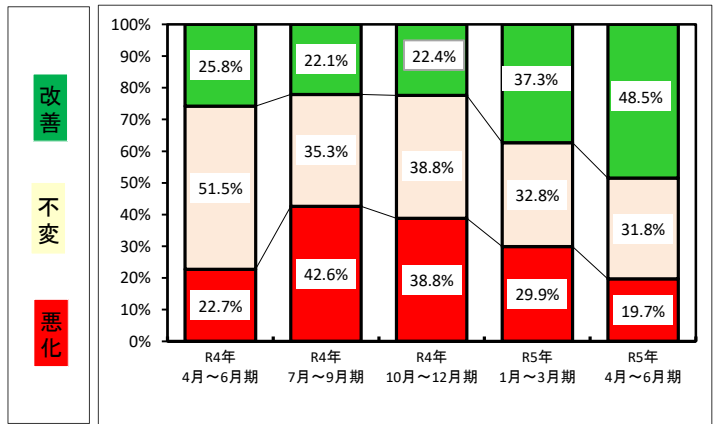
※『売上(収入)』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上・・・ 28.8 ポイント
(前期比 21.4 ポイント改善)

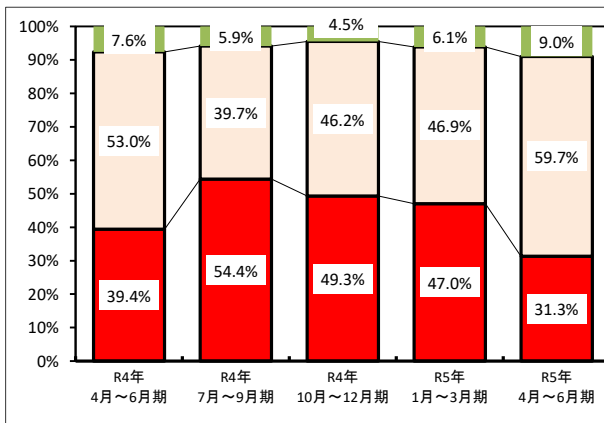
仕入単価・・・ 67.7 ポイント
(前期比 4.6 ポイント改善)

採算・・・ ▲22.3 ポイント
(前期比 18.6 ポイント改善)

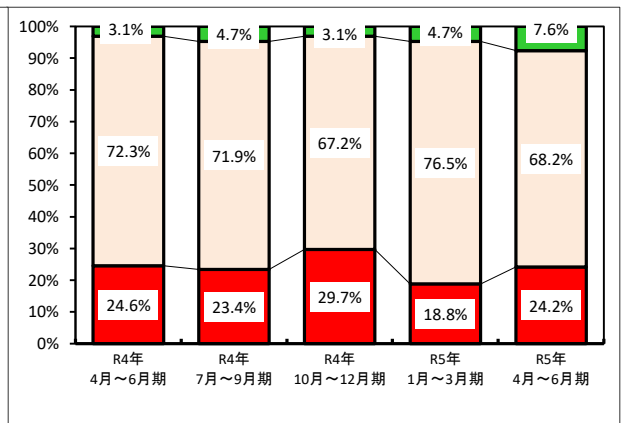
資金繰り・・・ ▲16.6 ポイント
(前期比 2.5 ポイント悪化)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



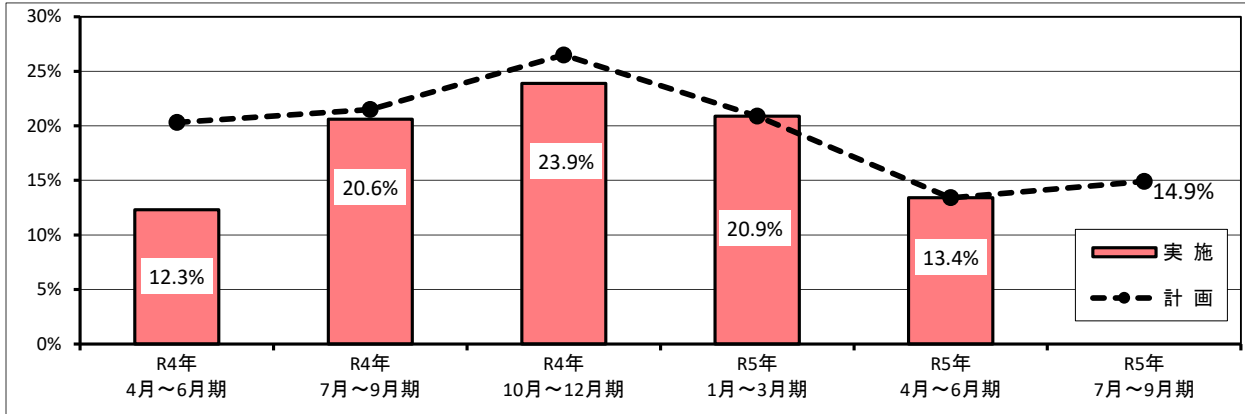
3. 各業種の景況

(4) サービス業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資を実施した企業数の割合は20.9%（前期比3.0ポイント悪化）であった。

サービス業	R4年			R5年		(計画)	
	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	R5年	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	R5年	
車両・運搬具	12.5%	14.3%	12.5%	14.3%	11.1%	7月～9月期	
サービス設備	62.5%	50.0%	37.5%	50.0%	55.6%	0.0%	
設備投資の実施	12.3%	20.6%	23.9%	20.9%	13.4%	20.0%	
						30.0%	
						14.9%	

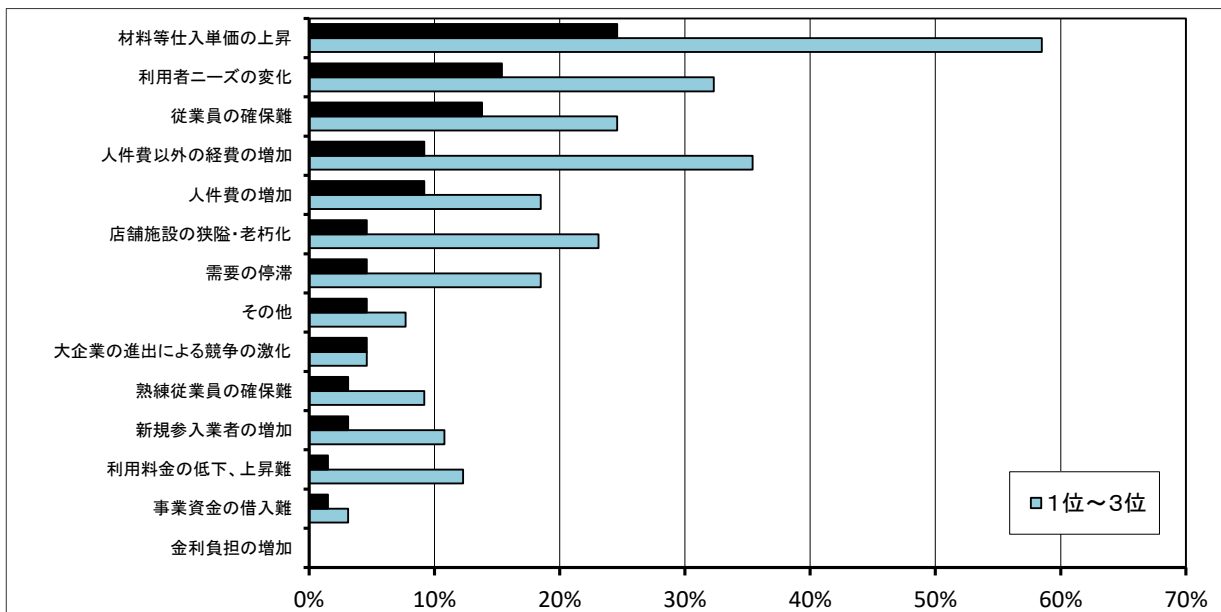


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料等仕入単価の上昇」「利用ニーズの変化」「従業員の確保難」が上位となった。



京都府商工会連合会

600-8009 京都市下京区函谷鉾町78番地

京都経済センター 3F311号室

TEL : 075-205-5418

FAX : 075-343-0373

E-mail : office@kyoto-fsci.or.jp